

## 訪日外国人入院時の支援



製鉄記念室蘭病院と留学生フレンドシップの「先行例」などについて意見を交わした会合

### 先行例踏まえ情報共有

留学生との連携検討会 室蘭

「訪日外国人等における外国人留学生との連携についての検討会」の第3回会合が26日、室蘭市海岸町の胆振総合振興局で開かれ、製鉄記念室蘭病院（前田征洋病院長）と、室蘭工業大学留学生らによる留学生フレンドシップ（日栄均代表）

間で業務委託契約を結んだ取り組みについて意見交換し、今後の運営方法などを確認した。

両者は今月7日、「訪日外国人入院患者等療養支援」の取り組みに関する業務委託契約を締結。訪日外国人が入院時、派遣された

留学生らが有償ボランティアで、生活用品購入や本国への連絡調整などを支援。話し相手となり、安心して治療を受けられる環境を提供する。

英語、中国語、台湾語、韓国語の4カ国語に対応し、利用料（4時間7000円）については、訪日外国人本人が負担する。

同病院では、今年5月から業務委託契約前まで、台湾人と韓国人計4人が救急搬送されたが、このうち2人については、留学生フレンドシップと連携して対応した。

同病院の山口秀二理事・事務長は「頻度は少ないが、ニーズが高いので非常に有意義な取り組み」と話す。しかし、韓国人留学生が手配できず「言語」ごとの当番表などがあると助かる。留学生を呼ぶタイミングも重要」と話した。

会合には、留学生フレンドシップの関係者、室蘭市医師会や室蘭・登別両市内の医療機関関係者、胆振総合振興局の担当者ら20人が出席。各病院の事情などに合わせた効果的な取り組みの必要性などについても話し合った。（松岡秀宜）